

## 第5回かづの未来会議

日 時：令和2年9月29日（火）18時30分～20時30分

場 所：鹿角市役所 第1・2会議室

出席委員：11名

（欠席：4名）

出席職員：〔政策企画課〕課長、政策監、  
主査、主査、主査

### 1 開会（進行：政策企画課 主査）

ただいまから、第5回かづの未来会議を開会いたします。

### 2 会長挨拶

本日の案件も多岐に渡るものになります。このようなご時勢ですので、後ろ向きになりがちですが、理想をもって前向きに考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### 3 議事

（1）鹿角市人口ビジョン（案）について（資料1）

説明：政策企画課 主査

（委員）資料22ページで、「高校新規学卒者の鹿角管内就職率は上昇と低下を繰り返している」という記述があるが、管内就職率が上下する要因として考えられるものはありますか。

（事務局）年によってバラつきがありますが、市では、ハローワーク鹿角（秋田労働局）と雇用対策協定を結んでいるほか、商工会や地域振興局、小坂町などとも連携し、合同の企業説明会の開催など、高校生の市内就職の勧奨などの取組みに力を入れているので、令和元年度はその成果が表れたのではないかと思います。

（2）第7次鹿角市総合計画前期基本計画（素案）について（資料2・3、参考資料）

説明：政策企画課 政策監、主査

（委員）出生率について、鹿角市では第3子の割合が他市に比べて高いということですが、個人的な感覚として、第1子を産んでしまうと、第2子以降の出産に対するハードルが下がる気がします。子ども

もを持たない人の事情は様々だと思いますが、経済的なハードルがあるのであれば、第1子出産に対する支援を手厚くすれば良いのではないかと思います。

(委員) 市内に親や親せきがない夫婦2人暮らしだと、収入も少ないし、生活を維持することで精いっぱいなので、1人目の出産への支援をしてもらえると嬉しいと思います。学校統合で地域に学校が無くなってしまおうとしても、廃校をフリースクールに利用するなど、子どもの数が少ないからこそ、特色のある学びの場が作られるというようにしてもらいたいと思います。人口減少については、全国的な傾向も分かれば、それに比較して鹿角市の状況はどうか、新しい視点で考えることができるのではないかと思います。

(事務局) 市も、第1子を出産すれば第2子、第3子出産へのハードルが下がるのではないかと分析しています。そこで、第1子への支援として、ファーストベビー祝い金も実施しましたが、その効果が数字に表れなかったという経緯があります。しかし、第1子を出産してもらうことの重要性も認識していますし、7次総の中でも検討していかなければならない課題です。また、未婚率の上昇が新しい課題となっており、特に男性の未婚率が高くなっているので、出産支援の前段階として、結婚支援について力を入れて取り組まなければならないと考えています。学校統合に関しては、今年度実施した市民アンケートでも設問にしておりましたが、子どもの数が少なくても取り組める教育もあるでしょうし、学校統合による集団での学びも重要だと考えております。人口減少については、全国的な傾向と比較するデータは今持ち合わせていませんが、鹿角市は県内でもいち早く移住政策に取り組んでいますし、移住者の比率は高いのではないかと考えています。合計特殊出生率は、県内2番目ですので、もっと高まるよう、人口減少対策に取り組みたいです。なお、西日本の出生率が高い傾向にあるので、分析をしていきたいと思っています。

(委員) 結婚したり、子どもができると自由に使えるお金がないという話を聞くので、第1子出産の支援をすれば、結婚や出産へつながるのではないかと思います。

(委員) 経営戦略2で「世界遺産のまち」をつくとありますが、鹿角市には素晴らしい自然があるので、もっと攻めた取組みをしてほしいと思います。美郷町では、アウトドアメーカーを誘致した事例があるようです。

(事務局) 観光政策では、稼げる観光を目指し、八幡平の自然を生かした観光PRなど、新たな観光振興計画を策定中です。自然と遺産を複合的に捉えた観光施策を進めていきたいと考えています。

(委員) 男性の未婚率が高いという話でしたが、その要因は捉えているのですか。

(事務局) 直接的な要因と断定はできないと思いますが、男女の人口バランスでみると、鹿角市は女性より男性の人口が多くなっています。また、結婚は個人の価値観によるものが大きいと思いますが、地域性も影響しているのではないかと思います。第7次総合計画では、結婚の希望が叶うよう応援するという取組方針を掲げていますので、今後、国勢調査の結果なども分析しながら進めていきたいと考えています。

(委員) 資料3の9ページの取組方針5で「適切な医療を受けられる体制を整えます」とあり、現状として医療ニーズは複雑化・多様化しているという記述があります。その通りだと思うのですが、事業展開の方向性を見ると、病院が主となる対策になっている印象を受けます。医療ニーズには、家庭での看取りも含まれると思うので、病院だけではなく、在宅医療までの一連の支援も必要ではないかと

思います。成果指標についても看護師や薬剤師数の目標値がありますが、それ以外に作業療法士や言語療法士などの医療スタッフの強化も追加したほうが良いと思います。

(事務局) 医療の中でも様々な分野がある中で、市として、どの部分に特に力を入れていくのかについて整理しています。記述がないからと言って、何もやらないということではありません。地域内で必要な医療体制をしっかりと整えるという意図をもって、成果指標を設定しています。

(委員) 目標値が現状よりも少し上になるよう設定しているようですが、目標が10年後のものなので、計画を進めるにあたっては、もう少し短い期間ごとの目標値が必要だと思います。

(事務局) 総合計画の計画期間は10年間ですが、前期と後期の5年ごとに計画を策定していきますので、5年後の目標値も設定していますし、新たな行政評価として単年度ごとの進捗状況も管理します。

(事務局) 成果指標の設定は、大体の数字を置いているのではなく、例えば中核病院の常勤医師数は、各診療科の維持に必要な医師数として設定しているものです。

(委員) 企業の設備投資に対する助成はいつごろから取り組んでいるのですか。

(事務局) 企業立地助成金による設備の高度化支援は、平成17年から実施しています。その前は誘致企業対象でしたが、市内の企業を支援していくことも必要と考え、市内企業の設備の高度化に対しても助成をしています。

(委員) 企業の利益増による税収の増加などを期待した支援だと思うのですが、効果は出ているのですか。

(事務局) 製造業であれば、粗付加価値によって設備投資の効果を測ることができますが、粗付加価値も伸びていますし、最新のデータでは従業者数も増加していますので、効果が表れていると分析しています。

(委員) 新規の企業誘致にも取り組むのですか。

(事務局) これまでであれば、多くの雇用が生まれるような誘致を目指していましたが、今後は、鹿角市の新産業になるような分野や地元企業の高度化が進む分野など、鹿角の若者の雇用につながるような産業振興を目指していきたいと考えています。

(委員) 直近の企業誘致の成果はどのように捉えていますか。

(事務局) 産業団地への野菜工場の誘致が実現しています。雇用状況で言えば、(市内企業の高度化によるものも含めて)現在の第6次総合計画後期基本計画における雇用創出数の目標値をすでに達成しています。

(委員) 効果が出ているのであれば続けていってほしいと思います。

(委員) 鹿角市の人口について、女性の転出が多く、戻ってくる女性も少ないという説明でしたが、なぜ女性だけの傾向なのかなと疑問ですし、他地区の状況と比べられれば、何か分かることがあるのではないかと思います。

(事務局) 前回の国勢調査から移動傾向が変化した背景には、女性の社会進出が進んでいることや、都市部への憧れなどもあると考えています。市内では希望する職種に就けないという考えもあるかもしれませんが、昨年度実施した中高生アンケートでは、語学やコミュニケーション能力を生かした国際的な職業に対する関心が高い傾向が見られましたので、世界水準を目指している地域DMOやインバウンド対応など、外国人観光客などをターゲットに地元でも語学力を生かした仕事に就けるというこ

とを見せられるようにしていきたいと思います。

(事務局) 前回の国勢調査では、若年女性の転入が多かったという説明をしましたが、その部分に関して、前回は県内他市町村の中では断トツで良かったものが、今回の調査では県内他市町村と同じような傾向になったと解釈していただければと思います。他市町村と比べて極端に悪くなったのではありません。また、合計特殊出生率が西日本で高い傾向と説明しましたが、特に山陰地域の島根とか鳥取で顕著に見られます。島根県で人口問題を研究している専門家によると、地域の女性に対する視線が要因では、ということです。県内では東成瀬村も合計特殊出生率が高いようですが、シングルマザーが戻ってくるケースも多いようです。

(委員) 取組方針4で「心身の健康づくりに取り組みます」とありますが、今、特に心のケアが大切なのではないかと思います。新型コロナウイルス感染症の影響で、一種の差別のような問題もあるようですし、経済的に影響を受けて気持ちがしぼんでしまっている人も多いのではないかと思います。また、経済的な問題で結婚できない人ばかりではなく、気持ちの部分で前に進めない人もいるのではないかと思いますので、心のバランスを保てるような手助けを考えられたらいいと思います。

(事務局) 心の健康づくりには、現在も取り組んでいます。第7次総合計画においても、「こころの健康づくり相談」などの事業を想定していますし、現在はゲートキーパーという心のケアの人材育成にも力を入れています。

(事務局) 取組方針19では「子どもから青少年までの生きる力を育みます」と設定し、小さいころからたくましく生きるための教育も大切だと考えています。

(事務局) 取組方針9も関連しており、事業展開の方向性の「③地域で支えあう体制・活動の充実」では、引きこもり対策などの取り組みが考えられます。大事な問題に関しては、多面的なアプローチで対応したいと思います。

(会長) 基本構想の基本戦略1の目標で「地元企業が元気で活力があると思う市民の割合」の基準値が低いのが非常に残念ではありますが、目標値50%は他に比べて、目標を高く掲げている印象を受けました。これくらいを目指さないといけないということの裏返しだと思うので、ぜひ重点的に取り組んでいただきたいと思います。先日、岩手県洋野町に行く機会があり、本市に組合本社を置く養豚場を見学したのですが、鹿角に数か所ある養豚場を合わせたのと同じ規模の農場が、広大な敷地に1か所にまとまっていました。機械化によって効率的に運営していて、従業員は20人だそうです。未来の農業の姿を見たような気がしました。鹿角市でもこのようなものを目指すことも必要なのではないかと感じました。

(委員) 資料2の基本構想で、基本戦略4の目標に「安全で安心して暮らせるまちだと思える市民の割合」が目標80.0%となっていますが、命にかかわる部分なので、結果はどうであれ100%を目指すくらい、もっと高い目標に設定してはどうかと思いました。資料3の基本計画の取組方針33の「コンパクトなまちづくりを進めます」は、中心市街地に関する事業の方向性が主になるようですが、(農村集落である)私の自治会に転居や転入で加入してきた人と話をしたときに、自分の家の前で気兼ねなくバーベキューができるのがとても魅力的だと言っていました。中心市街地だけではなく、他の地域の特性も考慮した計画にしてもらいたいと思いました。

(委員) 子どもが3人いますが、お金があるから産んだわけではありません。それでも、中学生や高校

生になると教育費もかかるようになると実感しています。未婚の人が増えているので、出会いの場を作ることも必要だと思うのですが、そのような機会を提供しても、なかなか人が集まらないという課題もあります。市内の職場環境も、ほぼ男性従業員しかいない会社や女性従業員しかいない会社が多いような印象があるので、企業同士の交流会などで、さりげなく出会いが生まれれば良いのではないかと思います。

(委員) 前回の会議で、取組方針 16 の災害対策で、消防団員の加入促進は難しいのではないかと発言しましたが、今回の資料では、「消防団員を確保・育成」となっているので、こういうところで意見が反映されているのだなと思いました。取組方針 1 の農業の関係で、人材確保が一番の課題とっていますが、農福連携も考えられないのかなと感じます。マッチングアプリを活用した人材確保とありますが、人口が減少する中で、人材確保できるのかという不安もあります。北海道や四国などでは、繁忙期に全国から労働力を募集している事例もあるので、参考にできるのではないかと思います。法人化しても、人が確保できないということもありますし、畜産業では家族経営が多いですし、果樹や花も大規模経営は難しい部分もあるので、支援も必要だと感じます。取組方針 23 の事業展開の方向性の「①魅力あるブランド農畜産品や高収益作物の生産拡大」で「果樹栽培面積の増加を目指した産地基盤整備強化」とあり、果樹栽培振興に力を入れているのですが、農業従事者の高齢化が進んでいて、栽培面積も減ってきているので、成果を出せるか心配です。農業と観光を組み合わせ考えていけば面白いのではないかと思います。

(事務局) 農業の人材確保の手段の一つとしての農福連携という提案だと思いますが、人材確保については我々も大きな課題であると認識しています。取組方針 2 の意欲のある就労・就農を支援するとして位置づけしていますし、農業人材確保は経営体の強化部分でもいろいろな手法で取り組みたいと思いますので、今回の意見も参考にさせていただきます。

(事務局) 北海道などの事例を紹介していただきましたが、繁忙期の労働力確保に関連して、取組方針 3 の事業展開の方向性の「②都市部や外国人材が働きやすい受入態勢整備」に特定地域づくり事業協同組合の設立支援というものがあります。これは国の支援制度で、市が設立するものではないのですが、農業や製造業などの事業者たちで組合を設立して人材派遣を行う制度です。労働力を必要とする時期に人材を派遣するのですが、雇用者側は通年で雇用が確保されるので安定した収入につながります。まだアイデア段階ですが、商工会を中心に検討中ですので、実現できれば農業人材の確保にも広げられるのではないかと思います。また、外国人材の受入も窓口機関になる管理団体を地域に作ると受け入れやすくなると思うので、検討したいと考えています。

(事務局) 果樹栽培面積は伸び悩んでいるところもありますが、果樹産地としての基盤は守っていきたいと考えています。観光と農業の組み合わせについては、農産物は食の観光資源にもなりますし、農業体験が観光メニューにもなりますので、鹿角の良さを生かしながらどちらの分野の振興も高まるよう取り組んでいきたいと思います。

(事務局) かつの観光物産公社からの情報ですが、農業体験メニューとして桃狩りを旅行商品化しており、去年は受け入れ 9 件だったのですが、今年は 91 件になったそうです。このような受け入れが、他の果樹農家にも広がれば、可能性が期待できると思います。

(委員) 八幡平の観光についても計画など検討しているということで、期待しています。取組方針 5 で

「適切な医療を受けられる体制を整える」とありますが、鹿角市は開業医も少なく、かかりつけ医を見つけるのも大変なので、10年後も見据えて、医療体制を整えてほしいと思います。経営戦略1の目標にしている「市外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思える市民の割合」の基準値が非常に低いので、自然や文化遺産など鹿角市の良さを生かしてまちづくりを頑張ってもらいたいと思います。また、シルバーリハビリ体操などのボランティア活動に、公務員OBの方から積極的に参加してほしいと思います。

(事務局) シルバーリハビリ体操は高齢者自らが指導者になって介護予防に取り組むというコンセプトで、効果が出ていると思います。市職員もその年齢になったらぜひ参加してほしいと思っています。地域医療に関しても率直なご意見だったと思いますが、そのような状況だからこそ、これ以上悪化させないというのが本音です。開業医支援については、助成制度も設けており、今年度は皮膚科の開業に至りました。産科については近隣市との連携が現実的だと思いますので、工夫しながら取り組んでいきます。在宅医療に関しては、課題ではありますが、まずは今の医療機関の水準を落とさないというところを重視しなければなりませんので、検討はしますが、優先度の高いものから取り組んでいく状況もご理解いただきたいと思います。今日は、人口ビジョンで、先行きが不安になるような推計を出しましたが、一方では、これ以上人口年齢構成がいびつにならないようなラインをお示しできたと思います。あまり暗くならず、戦略目標では鹿角にはチャンスがあるのだという自己肯定感を持てる割合を増やしていくような設定としていますので、今後の10年間で、市民の皆さんが素直に良さを評価できるような鹿角市にしていきたいと思っています。

※欠席した委員からの意見は次のとおり

- ・市民アンケートで満足度が高かった子育て支援をより充実させたり、「スキーと駅伝のまち」とうたっているのに、練習設備の増設や普段から練習している姿を市民が見られる環境がもっとあってもいいのではないかと思います。
- ・合計特殊出生率が高いので、第2子以降の祝い金の復活を検討してみても、と思います。

## その他

(事務局) 次回は、この計画の最終案のような形でお示しすることになります。未来会議の開催は12月頃を予定していますのでよろしくお願いします。

## 4 閉会 (20:30 終了)